



N.Inaba

THE MIYAKO STAKES

第14回 みやこステークス (GIII)

1着 賞金40,000,000円 2着 16,000,000円 3着 10,000,000円 4着 6,000,000円 5着 4,000,000円
 付加賞 539,000円 154,000円 77,000円



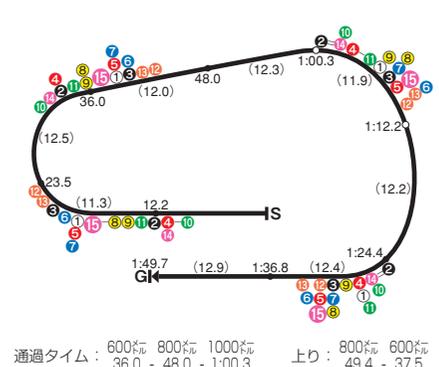
レース映像は
 コチラをご覧ください。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 3歳55⁺、4歳以上57⁺、牝馬2⁺減、2023.11.4以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2⁺増、
 牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1⁺増、2023.11.3以前のG I競走(牝馬限定
 競走を除く)1着馬1⁺増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.11.3 京都 晴・重 ダ1800^円 (国際) 確定

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600 ^m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑤	サンライズジバング	牡3	56	較島克駿	1:49.7	8-8-4-3	37.1	512(+4)	6.6③	音無秀孝(栗東)	111
2	⑬	アウトレンジ	牡4	57	横山和生	1/2	2-2-2-1	37.6	492(±0)	35.4①	大久保龍志(栗東)	108
3	⑦	ロードアヴニール	牡4	57	岩田望来	クビ	5-5-6-6	37.1	488(-2)	18.2⑨	野中賢二(栗東)	108
4	⑨	ハビ	牡5	57	幸 英明	1/4	10-9-9-9	37.1	488(±0)	12.5⑦	大久保龍志(栗東)	106
5	④	ミッキータチバナ	牡6	57	M.デム-ロ	3/8	13-12-12-10	37.2	518(-4)	11.4⑤	高橋 亮(栗東)	
6	⑥	ダンテパローズ	牡4	57	団野大成	1/4	4-3-2-2	38.5	524(+8)	67.6⑫	上村洋行(栗東)	
7	⑩	デリカダ	牡5	55	浜中 俊	1/8	5-5-4-3	38.6	494(+0)	31.8⑩	吉田直弘(栗東)	
8	⑩	トウセツ	牡5	57	角田大和	2	15-15-13-13	37.8	484(+2)	248.4⑮	杉山佳明(栗東)	
9	⑨	リプレーザ	牡6	57	国分優作	2 1/2	13-14-13-13	38.3	506(+4)	270.0⑯	大根田裕之(栗東)	
10	⑧	オメガギネス	牡4	57	藤岡佑介	クビ	9-9-6-6	39.1	494(-2)	2.6①	大和田成(美浦)	
11	③	ドゥラエレーデ	牡4	57	北村友一	アタマ	3-3-6-6	39.2	518(-6)	6.1②	池添 学(栗東)	
12	⑪	ロコポルティ	牡6	57	丸山元気	7	11-11-11-10	39.9	518(-2)	14.7⑧	西園正都(栗東)	
13	②	ゲンパチルシファー	牡8	57	田口貴太	クビ	12-12-15-15	38.5	506(-4)	121.4⑬	佐々木晶三(栗東)	
14	⑫	ミトノオー	牡4	57	松山弘平	3	1-1-1-3	41.4	502(-4)	11.1④	牧 光二(美浦)	
15	①	プロミストオリア	牡7	57	西村淳也	クビ	5-5-9-10	40.8	518(-8)	11.7⑥	野中賢二(栗東)	

単勝⑤660^円(3^ヶ%) 複勝⑤310^円(3^ヶ%) ⑬930^円(11^ヶ%) ⑦450^円(9^ヶ%) 枠連⑦-⑩2,350^円(10^ヶ%)
 馬連③-⑬11,310^円(43^ヶ%) ワイド③-⑬3,880^円(45^ヶ%) ⑦-⑬2,120^円(27^ヶ%) ⑦-⑬4,710^円(50^ヶ%)
 馬単⑤-⑬16,470^円(68^ヶ%) 3連複⑦-⑬⑤50,350^円(148^ヶ%) 3連単⑤-⑬⑦233,450^円(743^ヶ%)
 5重勝③⑥⑩⑬3,401,240^円(136票) 対象競走: 東京10R/京都10R/福島11R/東京11R/京都11R



通過タイム: 600^m 800^m 1000^m 上り: 800^m 600^m
 36.0 - 48.0 - 1:00.3 49.4 - 37.5

アラカルト

- ・較島克駿騎手はみやこS初勝利。JRA重賞は24年2勝目、通算11勝目
- ・音無秀孝調教師はみやこS初勝利。JRA重賞は24年3勝目、通算89勝目
- ・キズナ産駒はJRA重賞通算36勝目
- ・3歳馬の勝利は23年セラフィックコルに続く通算2回目
- ・サンライズジバングはチャンピオンズC(G I)に優先出走できる

サンライズジパング Sunrise Zipangu

牡 鹿毛 2021.3.16生
 北海道安平町 追分ファーム生産
 馬主・榊ライフハウス 栗東・音無秀孝厩舎
 馬名意味・冠名+「日本」を意味する言葉

サイマーIRE系 F16-b

キズナ 青鹿毛 2010	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	キャットキールCAN 鹿毛 1990	Storm Cat Pacific Princess
サイマーIRE Saimaa 鹿毛 2013	Zoffany 鹿毛 2008	Dansili Tyranny
	Serisia 鹿毛 1999	Exit to Nowhere Seralia

5代までのインブリード：Halo S4×M5 Coup de Folie M4×M5
 Crimson Saint S5×M5

INTERVIEW

平沼敏幸 厩舎長(追分ファームリリーバレー)

ダート適性の高さは想像していませんでした

芝向きと思えるような綺麗なシルエットをしていたので、ダート適性の高さは想像していませんでした。ダービーの後には牧場で調整をおこないましたが、レースの疲れもなくスムーズに立ち上げることができました。今後の試金石となるレースだと思っていたみやこSで結果を出してくれて嬉しかったです。年齢的にもまだ強くなれるだけに、GIでの活躍も楽しみです。

S.Setoguchi



再度ダート路線に照準を定めた秋、岩手の不来方賞で重賞初制覇を果たすと、ジャパンダートクラシックの3着を挟んで古馬勢を撃破。優先出走権を獲得したチャンピオンズCには、3歳の雄として挑むことになる。

父キズナ

北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産 中央、仏14戦7勝(日本ダービー^{G1}、大阪杯^{GII}、京都新聞杯^{GII}、ニエル賞・仏^{G2}、毎日杯^{GIII})、最優秀3歳牡馬、16年から供用。23年日本2歳リーディングサイヤー
 (代表産駒)ジャスティンミラノ(皐月賞^{G1}、共同通信杯^{GIII})、ソングライン(安田記念^{G1}2回、ヴィクトリアマイル^{G1}、富士S^{GII})、アカイト(エリザベス女王杯^{G1})、ディープボンド(阪神大賞典^{GII}2回、フォワ賞・仏^{G2}、京都新聞杯^{GII}、天皇賞(春)^{G1}2着3回、有馬記念^{G1}2着)、ハスラットレオン(ニューゼalandトロフィー^{GII}、ゴドルフィンマイル・首^{G2})、シックスペンス(毎日王冠^{GII}、スプリングS^{GII})、マルターズディオサ(チューリップ賞^{GII})、クイーンズウォーク(ローズS^{GII})、アスクワイルドモア(京都新聞杯^{GII})、他に重賞勝ち馬多数

母サイマーIRE

仏13戦2勝(イゾラベラ賞・L3着)、18年輸入

グランシエロ(19 牡父ハッククライ)中央9戦1勝(アイビーS・L2着)

グランリュウ(20 牡父ドウラメンテ)中央2戦0勝

サンライズジパング 本馬(21 牡父キズナ)中央8戦3勝(みやこS^{GIII}、若駒S・L、ホープフルS^{G1}3着)、地方3戦1勝(不来方賞^{JpnII}、JBC2歳優駿^{JpnIII}2着、ジャパンダートクラシック^{JpnI}3着)
 獲得総賞金149,308,000円

サヴォンリンナ(22 牝父サトノダイヤモンド)中央1戦0勝 @

(23 牝父シルバーステート)

(24 牝父シルバーステート)

祖母セリシア Serisia

フランス産 仏4勝(ブシケ賞^{G3}、ラセーズ賞・L)

スケイプグレイス Scapegrace(05 牝父Cape Cross)不出走、サングレゴ

ワール Saint Gregoire(ポワンデュジュール賞・L2着)の母

コントリビューター Contributor(10 牝父High Chaparral)豪、英8勝(チップリングノートンS・豪^{G1}、ランヴェットS・豪^{G1}、アポロS・豪^{G2}、デヴィットジョーンズC・豪^{G3}、ウルファートンH・英L)

セリセット Serisette(12 牝父High Chaparral)不出走、サンプルジュスト Semble Juste(マリヒューマンジョージメモリアルS・米)の母

サイマーIRE(13 前出)

曾祖母セリア Seralia

イギリス産 仏1勝(ヤコウレフ賞・L、カルヴァドス賞^{G3}3着)、キングオブスティール King of Steel(チャンピオンS・英^{G1})の曾祖母

伸び盛りの3歳馬が古馬勢を一蹴

1着馬にチャンピオンズCへの優先出走権が与えられるみやこSの主役と目されたのはオメガギネス。同舞台の三宮Sを7馬身差で圧勝し、東海S2着、前走のシリウスSでも2着に食い込んだ4歳馬が、単勝2・6倍と断然の支持を集めた。芝とダートにまたがり、二刀流の活躍を続ける2022年の2歳中距離王ドウラエレデが2番人気に支持されたものの、勝利を飾ったのは3番人気のサンライズジパング。伸び盛りの3歳馬が初めて顔を合わせた古馬勢を一蹴し、ダートの頂上決戦に名乗りをあげた。

前日に降った雨の影響が残り、舞台は重馬場。とはいえ爽やかな秋晴れの

もてでゲートが開くと、平安Sの覇者ミトノオーが一枚上のダッシュで飛び出し、先手を奪取、重賞初挑戦の4歳馬アウトレンジが2番手、ドウラエレデが3番手に続き、緩みのない流れでレースは進む。大外枠を引いたサンライズジパングの鮫島克駿騎手は、1、2コーナーを中団でターン。しかし向正面半ばから手綱を押して進出にかかり、直後を進んだオメガギネスもこれを見ながら追撃を開始した。

3コーナーに差し掛かるとダンテパローズが4番手から前に接近。応戦して仕掛けたアウトレンジとともにミトノオーを呑み込み、直線の攻防の幕が開く。馬群の外をまくり上げて3番手まで進出、前の2頭を射程に収めたサンライズジパングは、ひと息と映った勝負どころの反応とは裏腹に息の長い末脚を發揮。ダンテパローズを差し返す形で突き放したアウトレンジをキツチリと捉えてゴールに飛び込んだ。

JBC2歳優駿でフォーエバーヤングの2着に食い下がった本馬は、ホープフルS3着、若駒S1着と芝の舞台にも高い適性を示し、春は皐月賞9着、ダービー(12着)へ駒を進めた。